

第5章 地域別のまちづくり方針

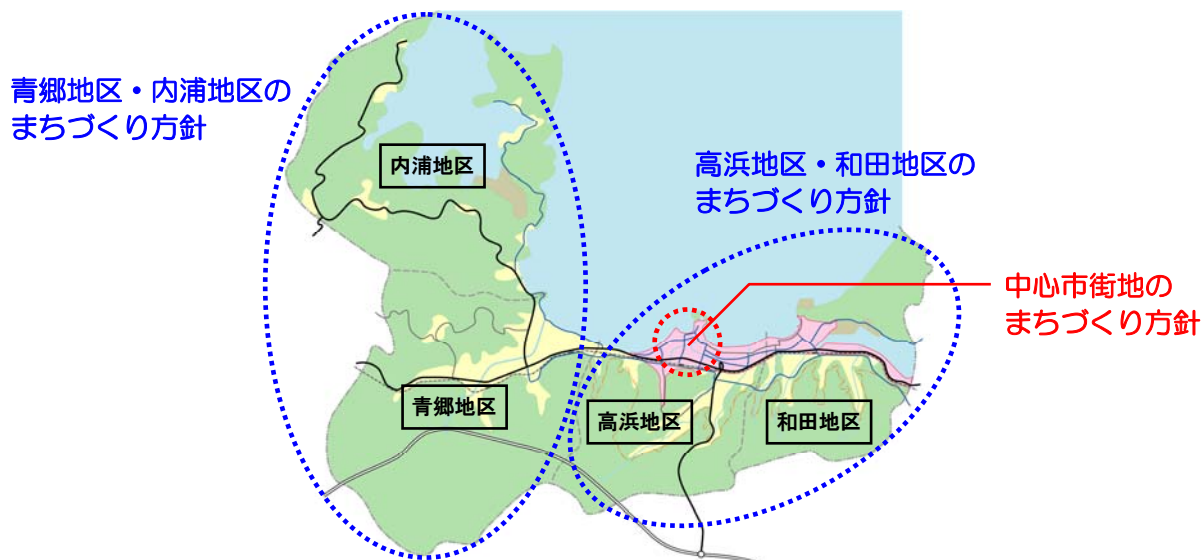
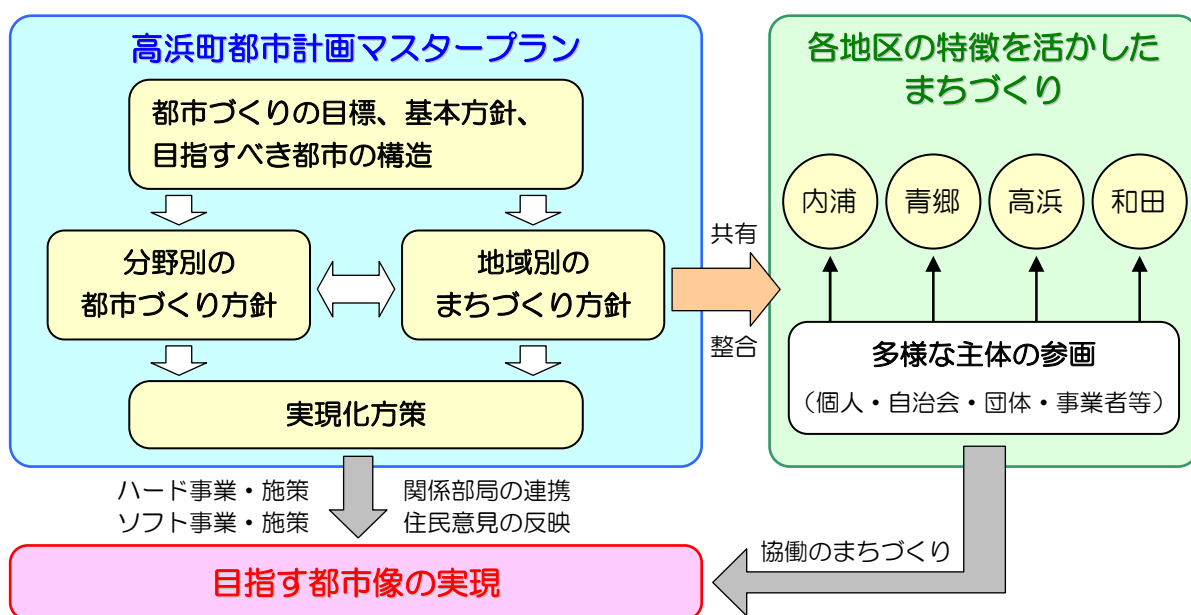
5-1 地域別のまちづくり方針の位置づけ

本計画が掲げる「海辺の暮らしから“^{つなぐ}継” ～ひと・暮らし・自然・産業が結び付き文化をつなぐ持続可能な風景都市～」を実現するためには、土地利用の規制・誘導や都市基盤の整備などといった骨格的な取り組みだけではなく、高浜・和田・青郷・内浦の各地区の特徴を活かしたきめ細かな取り組みが必要です。

又、そのためには、行政の取り組みだけではなく、住民との協働あるいは住民主体によるまちづくりとの両輪で進めていくことが重要です。

高浜町においては、住民・団体・事業者など多様な主体が中心となったまちづくりの取り組みが数多く行われていますが、目指す都市像を実現するためには、目標や想いを共有するとともに、目指す都市像にどのように寄与するかを意識することが重要です。

地域別のまちづくり方針は、都市づくりの考え方・進め方を地域（地区）レベルに落とし込むことによって、多様な主体との協働によるまちづくり・多様な主体が中心となったまちづくりを進める上での共通の目標像としての役割を果たします。



5-2 高浜地区・和田地区のまちづくり方針

(1) 主な現状と問題点

-
- ①人口関連
- ・全体として、人口は減少、世帯数は増加傾向にあります。
 - ・特に、密集した漁村集落などの旧市街地を中心に人口が減少しています。
 - ・旧市街地の周辺や郊外部の一部で宅地開発が行われ、旧市街地からの世帯分離の受け皿となっています。
-
- ②土地利用
関連
- ・旧市街地では、人口の流出に伴い空き家・空き地が増加しています。
 - ・若狭高浜駅や若狭和田駅の周辺には、公共施設や医療・福祉施設などが集積しています。
 - ・湯谷の住宅団地など一部を除き、複合型の土地利用が形成されています。
 - ・菌部地係には一団の農地（市街地内農地）が残っています。
 - ・青戸入江の埋立て地は、活力や雇用の創出などに向けた活用が必要です。
 - ・郊外の農地はあまり乱開発されておらず、概ね良好に保全されています。
-
- ③交通関連
- ・国道 27 号と町道南山手線（若狭西街道）が東西方向の交通を支えています、大規模災害などに対応した広域的な移動性の確保が求められています。
 - ・市街地内の道路網（都市計画道路）は整備が進んでいません。特に南北方向の道路が少なく、来訪者にも分かりにくい道路網となっています。
 - ・旧市街地を中心に狭隘道路（路地）が多く残っており、新築や増改築だけでなく日常生活においても支障をきたす場面が見られます。
 - ・一方、これらの路地空間は、沿道に残る伝統的民家群などと合わせて、地区を特徴づける景観要素・地域資源となっています。
-
- ④防災関連
- ・旧市街地では、木造家屋が密集するとともに狭隘道路が多く見られることから、災害に対する脆弱性が問題となっています。
 - ・若狭湾に面するため、津波被害などが想定され、広域避難路となる国道 27 号や高台などへ安全にアクセスできる道路網の整備や誘導体制の強化が必要です。
 - ・鉄道駅の周辺などは地盤が低く、大雨時には浸水被害が生じています。
 - ・市街地や集落の背後に急峻な山地が迫り、土砂災害などの危険性が高い箇所があります。
-
- ⑤主な地域
資源
- [自然] 若狭湾国定公園(若狭湾、青戸入江、城山、安土山、松林等)、妙見山、牧山、子生川
- [歴史・文化] 旧京都電燈株式会社高浜営業店、佐伎治神社・高浜七年祭、馬居寺、
旧丹後街道、伝統的民家群保存活用推進地区、郷土資料館、漁村文化伝承館
- [景観] 若狭湾(日本の夕陽百選)、青戸入江、明鏡洞(福井ふるさと百景)、旧丹後街道(同左)、
伝統的町並み・路地空間(福井ふるさと百景)、
青葉山への眺望(海岸線、安土山、国道 27 号、まちなか等)
- [観光・レクリエーション] 海水浴場(快水浴場百選/若狭和田海水浴場)、城山公園・城山荘、
明鏡洞、キャンプ場、安土山公園、若狭和田マリーナ、
高浜漁港、和田港、中央体育館・野球場、道の駅シーサイド高浜、
B&G 海洋センター・和田球場、エルどらんど
- [公共公益施設] 役場、小浜警察署高浜交番、若狭消防署高浜分署、高浜病院・サンビュー高浜、
中央図書館、文化会館、高浜中学校、小学校(高浜、和田)、
保育所(高浜、和田)、児童センター(高浜、和田)、公民館(高浜、和田)、
若狭高浜駅、ぷらっと Home 高浜、若狭和田駅、保健福祉センター、瑞祥苑、
高浜けいあいの里、若狭体育館

(2) まちづくりの方針

①まちづくりの目標

豊かな自然や歴史・文化・地域産業を活かした賑わいや交流を育むまちづくり

②まちづくりの方針

ア) 歩いて生活できる安全・安心なまちづくり

人口減少や少子化・高齢化の進展などの社会環境の変化に対応した持続可能な都市構造を形成するため、誰もが安心して暮らすことのできる環境づくりを進めます。

役場の移転をはじめ、医療・福祉・商業などの都市機能の集約や利用しやすさの向上を図るとともに、誰もが安心して歩ける道づくり、身近な公園や広場空間の整備、安全な避難路や避難所の確保、雨水排水対策、地域防災力の強化など、安全・安心な環境づくりを進めます。



高浜病院



安全な歩行者・自転車空間

イ) 多様な世代が共に暮らし・活躍できるまちづくり

旧市街地を中心に、住みたい・住み続けたいと思える居住環境を創出し、まちなか居住を推進します。

そのために、安全・安心な環境の創出とともに、高齢者や若者世代に対する住宅の整備、空き家や空き地の適切な管理と有効活用、住宅取得への支援などを図りながら、居住者の受け皿づくりを進めます。



公営住宅(汐入団地)

又、伝統的民家群や路地空間、若狭湾や漁港・港などの地域資源を住環境の魅力づくりに最大限に活用し、住みたくなるまちなか環境を創出します。

さらに、地域の主体的なまちづくり活動を通じたコミュニティの活性化や世代間の交流などにより、多様な世代が自らの能力を発揮し、楽しみながら継続できる環境づくりを目指します。

ウ) 賑わいや活力の創出に向けた地域資源を活かしたまちづくり

海水浴場、キャンプ場、漁港・港、城山公園・城山荘、安土山公園、伝統的民家群・路地空間、伝統文化などを最大限に活用し、観光・レクリエーションや交流などを通じて賑わいや活力の創出を図ります。



海水浴場と青葉山

城山公園・城山荘や高浜漁港の再整備など、核となる基盤整備を推進するとともに、旧丹後街道や路地を活かした魅力ある町並み空間づくり、そぞろ歩きが楽しめる道づくりや休憩ポイントの整備、シンボルロードの整備、情報発信の強化や誘導サインの整備、イベント戦略などを地域との協働により推進します。



若狭たかはま漁火想

観光・レクリエーションや回遊を支える地域産業の育成と新たな商業・観光サービスの誘致に努めるとともに、美化活動や景観形成、観光ガイドなどに地域が主体的に取り組み、温かいもてなしのまちづくりを進めます。

青戸入江の埋立地は、新たな町の活力や雇用の場の創出に向けた工業・研究拠点として、エコなどの次世代産業の誘致を図るとともに、海辺を活かした公園の整備を検討します。

エ) 豊かな自然を守り・育むまちづくり

市街地を取り囲む農地や森林では、持続可能な都市を形成する観点からも無秩序な開発を抑制します。

又、農林業の担い手としての集落活力の維持や後継者の育成などを図りながら、多面的な機能を保全するとともに、自然体験やエコなど、まちづくりとの連携を図りながら活性化を目指します。



市街地の背景となる農地と山並み

③生活イメージの例

高浜地区・和田地区の特徴を活かしたまちづくりを進めることによって、次のような生活像（暮らしぶり）をイメージすることができます。



様々な機能が集積した安全で快適な暮らし



青葉山などへの美しい眺望景観を様々な
場所で楽しめる心の贅沢な暮らし

見られることを意識して身の回りを
整えた綺麗なまち



活発なコミュニティの下で多様な
世代が能力を発揮できる暮らし



住民相互や来訪者との交流を通じた賑わいのある暮らし



(3) 中心市街地のまちづくり

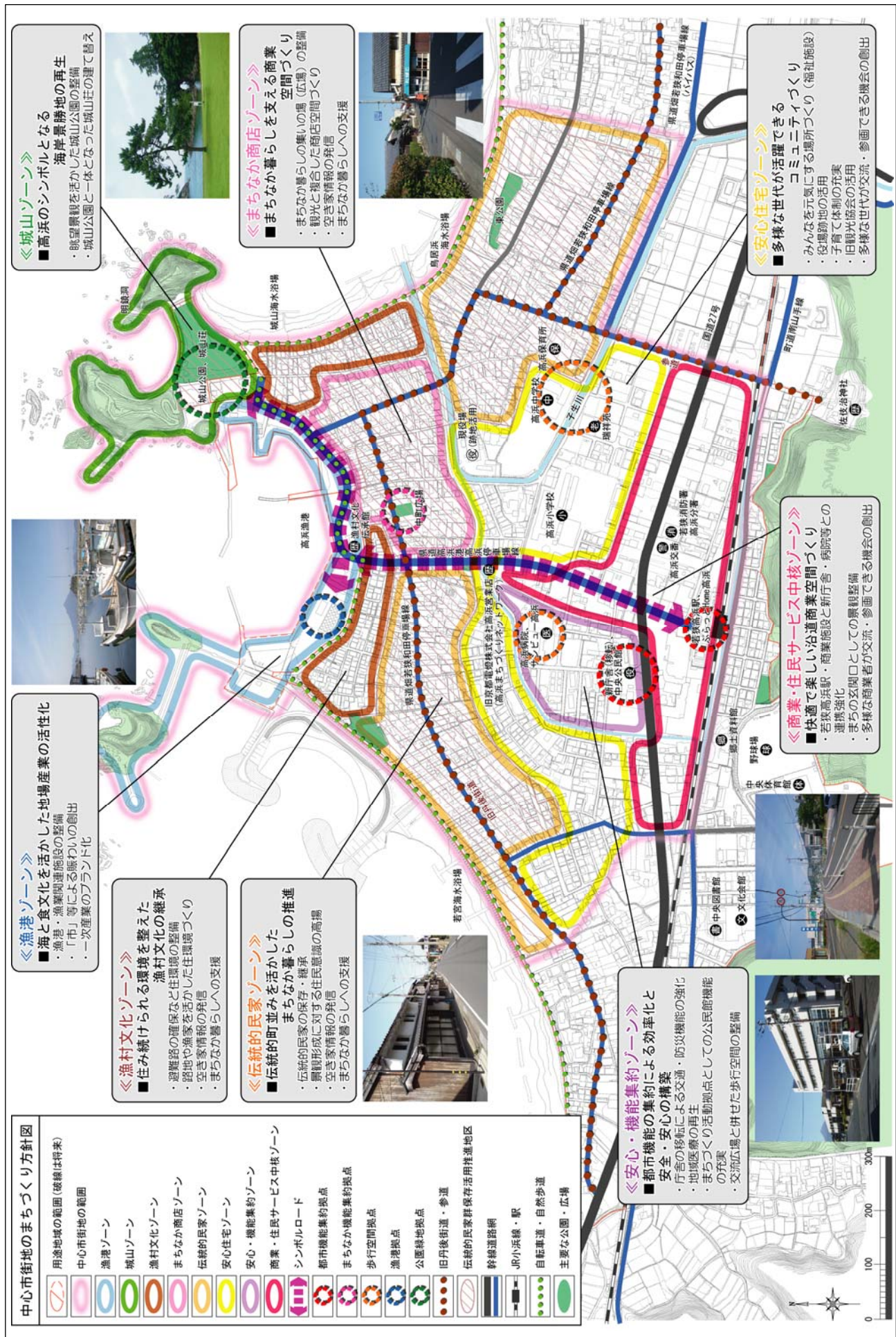
高浜町の中心市街地は、骨格的な道路網や公共交通機関の結節点であり、役場をはじめとする公共施設や商業などの住民サービス機能が集積しています。又、城山公園や高浜漁港などの賑わい創出の核となる機能を有し、伝統的民家群や漁村文化などの長年にわたり受け継がれてきた地域固有の資源も集積しており、まさに町の中心と呼ぶにふさわしい場所です。

中心市街地においては、「高浜コンパクトシティ基本構想」に基づき、都市機能の集約化や都市基盤の整備、地域の特性を活かした景観の整備、地域住民との協働によるモデル的な取り組みなど、様々な事業・施策が計画されています。

本計画が掲げる『海辺の暮らしから“^{つなぐ}継”』の実現に向けた先導的なプロジェクトとして、中心市街地のまちづくりを位置づけ、「高浜コンパクトシティ基本構想」と連携を図りながら戦略的に取り組んでいきます。

■中心市街地のまちづくりに係る3つの系統と8つのゾーン

3つの系統	8つのゾーン	ゾーンに関する基本的な方向性
賑わい・景観系	漁港ゾーン	■海と食文化を活かした地場産業の活性化 ・基盤となる高浜漁港の再整備を行うとともに、漁業資源を活かした地場産業の活性化を図ります。
	城山ゾーン	■高浜のシンボルとなる海岸景勝地の再生 ・町民に愛される公園として、良好な眺望景観を活かした城山公園一帯の再整備を図ります。
まちなか暮らし系	漁村文化ゾーン	■住み続けられる環境を整えた漁村文化の継承 ・安心して住み続けられる環境整備や居住支援を行いながら、伝統的な漁村文化を継承します。
	まちなか商店ゾーン	■まちなか暮らしを支える商業空間づくり ・まちなか居住者や来訪者に対する商業サービスの充実や集いの場の整備を図ります。
	伝統的民家ゾーン	■伝統的町並みを活かしたまちなか暮らしの推進 ・地域固有の景観に対する住民意識の高揚を図りながら、伝統的な町並みを保全・継承します。
	安心住宅ゾーン	■多様な世代が活躍できるコミュニティづくり ・多様な世代が交流・参画できる場や機会を創出し、元気に暮らせる住環境を形成します。
都市機能集約系	安心・機能集約ゾーン	■都市機能の集約による効率化と安全・安心の構築 ・庁舎の移転を核として、町の新たな顔にふさわしい安全で質の高い空間づくりを進めます。
	商業・住民サービス中核ゾーン	■快適で楽しい沿道商業空間づくり ・町の玄関口として、風格ある景観づくりと楽しみが感じられる商業空間づくりを進めます。



5-3 青郷地区・内浦地区のまちづくり方針

(1) 主な現状と問題点

- ①人口関連
- ・人口の推移は、青郷地区は概ね横ばいですが、内浦地区は減少傾向が続いています。
 - ・青郷地区では世帯数が一貫した増加傾向にあり、世帯分離に伴う農地の宅地化が進展している状況が伺われます。
 - ・内浦地区では人口減少が特に顕著になっており、コミュニティの衰退や地域力の低下などが問題となっています。

- ②土地利用
関連
- ・関屋川の流域にまとまった平坦地があり、農地が広がっています。その周囲を青葉山や三国岳などを頂とする森林地域が取り囲み、北側一帯は若狭湾・内浦湾に面しています。
 - ・高浜町の景観的シンボルであり、若狭富士と称される青葉山を有しており、登山などのレクリエーションの場として親しまれています。
 - ・棚田を利用した体験農業やまちづくり活動が地域主体で行われています。日引の棚田は、日本の棚田百選に選定されています。
 - ・里地里山の開けた地に既存集落が形成されています。青郷地区では、世帯分離に伴う住宅の立地や民間による住宅開発が行われています。

- ③交通関連
- ・国道 27 号や主要地方道舞鶴野原港高浜線により、東西・南北方向の骨格道路網が形成されていますが、地形的条件から代替性が低く、土砂崩れなどの災害により孤立する恐れがあります。
 - ・三松駅や青郷駅は、地域の玄関口として、観光・レクリエーション資源の案内機能などを有しています。

- ④防災関連
- ・関屋川の流域では洪水による浸水被害が想定され、海岸に面する地域では津波による浸水被害の発生が想定されています。
 - ・急峻な山地に囲まれていることから、山村集落・漁村集落の多くで土砂災害の発生が想定されています。
 - ・高浜原子力発電所が立地しており、特に内浦地区では、万が一の事故に対して安全かつ迅速に避難できる道路網の整備が重要となっています。

- ⑤主な地域
資源
- [自然] 若狭湾国定公園（若狭湾、内浦湾、音海大断崖等）、青葉山、三国岳、牧山、関屋川、杉森神社のオハツキイチョウ
 - [歴史・文化] 大成寺、正楽寺、中山寺、音海のお的射り、青海神社・柴の実入れ、吉坂保塁砲台跡
 - [景観] 若狭湾国定公園（若狭湾、内浦湾、音海大断崖、恵良岬展望台等）、青葉山（若狭富士）、日引の棚田（日本の棚田百選、福井ふるさと百景）、
 - [観光・レクリエーション] 海水浴場、青葉山、三国岳、脇坂公園、五色山公園・匠の美術館、青葉総合グラウンド、西地区体育館・青葉ふれあいドーム、池田山公園、青葉山青少年旅行村
 - [公共公益施設] 青郷小学校、青郷小学校高野分校、内浦小中学校、保育所（青郷、内浦）、青葉児童センター、青郷公民館、内浦公民館、青葉苑、社会福祉センター、三松センター、内浦診療所、三松駅、青郷駅
 - [その他] 高浜原子力発電所

(2) まちづくりの方針

①まちづくりの目標

海・山・農の風土を育むスローライフまちづくり

②まちづくりの方針

ア) 豊かな自然を守り・育むまちづくり

若狭湾国定公園や青葉山などの豊かな自然は、住民共有の財産であり、その中で暮らすことへの誇りや愛着心の醸成を図り、自然に親しみ・楽しむ活動を通じて、次の世代に引き継いでいきます。

又、森林や農地は、環境保全や生態系の維持、防災など多面的な機能を有しており、無秩序な開発を抑制するとともに、後継者の育成など持続可能な維持管理体制を整えます。

さらに、福井県の西の玄関口に位置することから、来訪者が心地よさを感じることができる質の高い環境づくりを進めるとともに、景観との調和に配慮したサイン整備などにより、来訪者の誘導を図ります。



音海大断崖



日引の棚田

イ) スローライフまちづくりの推進

大量生産・大量消費などの経済性や効率性を優先した生活の中で、ゆとりが失われ、人と人、人と自然のつながりが希薄になりつつあります。ゆとり、豊かな心、健康や生きがいなど、見失いがちにあるものを見つめ直し、地域の手作りによるスローライフまちづくりを推進します。

そのために、環境に負荷をかけないライフスタイルへの転換、地域の素材を使った食の提供、滞在型・着地型の観光・レクリエーションの推進、農林漁業に楽しみながら従事するスロービジネスの展開、活動拠点となる場所の充実などを、「青の里構想」とも連携しながら行っていきます。

又、環境教育の推進や地域住民同士の助け合い・支え合いを促進するなど、スローライフを支える人づくりを進めます。



関屋川と鯉のぼり



棚田を利用したグリーンツーリズム

ウ) 安全で快適なまちづくり

農山漁村地域の産業や活力を支える主体である住民の定住を促進するため、生活拠点機能の充実と防災性の向上を図ります。

そのために、公民館などの機能充実を図り、地域が主体となったまちづくり活動やコミュニティの維持・活性化に努めます。



内浦公民館

又、土砂災害の未然防止や総合治水対策、地域防災力の強化などに努めるとともに、大規模自然災害や原子力災害などに際して住民が迅速かつ安全に避難することができるよう、避難路の整備・充実を図ります。



山沿いに建ち並ぶ漁村集落



内浦湾と高浜原子力発電所

③生活イメージの例

青郷地区・内浦地区の特徴を活かしたまちづくりを進めることによって、次のような生活像（暮らしぶり）をイメージすることができます。



美しい自然の下での落ち着いた暮らし



誇りと愛着をもって美しい自然を守り育み続ける暮らし



昔ながらのコミュニティを大切にしたい心の温かな暮らし



町のシンボルである青葉山を身近に体感できる暮らし



美しい自然を通じて来訪者との出会いや交流を楽しむ暮らし

